

平成二十七年 第七期くまもと俳句ポスト

第七期開函

日本伝統俳句協会評議員 井芹 眞一郎 選

特選

湖隴汀女の気配ありにけり

熊本県熊本市

山崎綾子

【講評】

中村汀女は明治三十三年、父斎藤平四郎、母亭の一人娘として江津湖のほとりに生まれた。結婚後は遠くから故郷や親を思いやる俳句を多く作ったので「江津湖の汀女」と云われた。今は生家も残されていないが江津湖畔を訪れると、春の朦朧とした雰囲気も手伝って今にも汀女が佇んで居るように思われたのであろう。「隴」の季題が動かせない。

わが輩通り賞

漱石の所縁の駅舎風薫る

熊本県熊本市

森本尚子

入選

銀杏若葉仰げばせまる武者返し
おしろにはみどりがあふれいきいきと
また一片汀女の湖の薄紅梅

熊本県熊本市
福岡県久留米市
群馬県高崎市

野崎一雄
福田征一
吉井巧

佳作

露草や一口城主の夫は亡き
ジエーンズの教え脈々肥後の夏
草枕辿れば涼し石畳
漱石の降りたる駅舎山笑う
桜散る不開門を降りけり
一と雨に一と雨ごとに七変化
草千里人馬ともどもかぎろへり
球磨川の瀬音激しく明易し
春日さす八雲好みの高机
紫陽花や天守めざして子らの声

熊本県熊本市
熊本県大津町
熊本県熊本市
熊本県熊本市
熊本県熊本市
熊本県熊本市
熊本県熊本市
奈良県生駒市
福岡県広川町
長崎県諫早市

木村初子
木庭杏子
林田秀久
富士川一裕
寺本こう子
坂本あかり
菊池一郎
佐々木潤子
水本艶子
麻生勝行

投句総数

六二二句

市外

三六三句

市内

二五九句

開函日 平成二十七年六月三十日